# 薄暮時間帯・夜間帯における歩行者事故防止

これからの時期、日没が早まり、歩行者被害の交通事故が増加します。

**○　ドライバーは、早めのライト点灯とハイビームの励行**

**○　歩行者は、明るい服装と反射材の着用**

で、交通事故防止に努めましょう。

## ドライバー編

### 夜間は原則ハイビーム！！

夜間は、ハイビーム（走行用前照灯）が原則です。

対向車や先行車がある場合などで、他の車両等の交通を妨げるおそれがある場合には、ロービームにしましょう！

**ハイビーム(走行用前照灯)**

夜間に前方100mの距離にある交通上の障害物を確認できるもの。

**ロービーム(すれ違い用前照灯)**

照射光線が他の交通を妨げないものであり、かつ、夜間に前方40mの距離にある交通上の障害物を確認できるもの。

**ハイビームを活用すれば、約56％衝突回避できたかも！！**

※H29警察庁公表資料より

※自動車対歩行者の死亡事故において一定の条件下で発生したものを調査

車から約70m先の横断歩道にパイロンを設置しています。

パイロンは全く見えません、、、

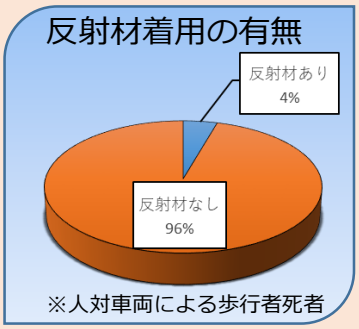
パイロンはしっかりと確認できます！

## 歩行者編

**夜間、暗い服装を着用していると、車のドライバー等から発見されにくくなります。**

**<u>明るい服装を着用し、反射材を装着して</u>外出しましょう！**

**過去５年（H29～R3）の人対車両による交通死亡事故の歩行者死者において、反射材を着用していたのは、わずか約４%でした。**

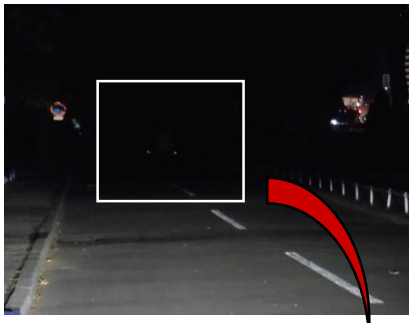



### 歩行者の見え方（夜間、車の前照灯のみ）

Ⓐ　明るい服装と反射材装着
Ⓑ　明るい服装のみ
Ⓒ　暗い服装、反射材無し

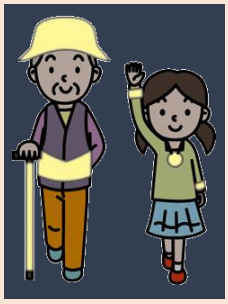
**明るい服装と反射材の重要性がわかります！！**

### 横断歩行者の見え方（夜間、車の前照灯のみ）



**横断している歩行者がいるのわかりますか？！**

暗い服装で反射材も無ければ、ほとんど見えません…

**明るい服装で、反射材を装着すれば、、、**

**発見！！**